



長野市民病院
Nagano Municipal Hospital

故 長田名誉院長

追悼号

長野市民病院広報誌 号外

あした元気になるあれ

長野市民病院 の理念

1. 命のいとおしさを大切に、人間味あふれる医療を提供します
2. 医療水準の向上に努め、高度で良質、安全な医療を提供します
3. 個人の人権と意思を尊重し、情報の開示、説明と同意を基本とする医療を提供します
4. 地域の保健、医療、福祉機関等との機能分担に配慮し、円滑な連携を図ります

地域がん診療連携拠点病院

病院機能評価認定病院

臨床研修病院



「弔辞」

長野市民病院 病院長 竹前紀樹

去る6月27日、長野市民病院名誉院長 故長田敦夫医学博士の告別式がご郷里の茅野市で挙行されました。

先生は、諏訪清陵高校から信州大学医学部に進学。同大学院修了後、母校の第二内科において消化器内科、特に肝臓、脾臓疾患をご専門とされ、多くの学問的業績を残され、また幾多の有為な人材を育成されました。

昭和60年7月には郷里の地域住民のための医療活動を望まれ、諏訪赤十字病院内科部長に赴任。後に副院長に就任され、平成9年には国立長野病院の初代病院長に就任。国立長野病院での5年間に綴られているご高著「心の通う医療をめざして」からは、先生の医療に対するお心積もりを伺い、大変感銘を受けました。

平成14年4月、長野市民病院病院長に就任されてからは、市民健康講座開催、ボランティアさんの病院図書館、病院祭開催、地域医療連携等を通じて市民の皆さまとの心の通う医療に取り組みされました。また、平成15年には病院機能評価認定、臨床研修病院指定、平成18年にはDPC及び7対1看護基準取得、平成19年には地域がん診療連携拠点病院指定と各種施設認定取得にも注力され、一方、100床増床を含む増改築事業、長野市医師会との協働による急病センターの機能移転、救急センター開設等にもご尽力され、長野市民病院を名実ともに信頼される「長野の市民の病院」に育てて下さいました。病院長としての5年間は、卓越した指導力で私たちをリードして頂き、平成19年3月にご退職されてからも、名誉院長として何かとお力添えを頂きました。明るく温厚なお人柄は、患者さまはもちろん病院職員からも慕われ愛され続けていました。私も職員一同は、先生が築いて下さった多大なご功績をしつかりと受け継いで参ります。

ここに、深く先生のご逝去を悼み、生前のご功德を称えらるとともに、残されたご遺族さまの前途に先生のご遺徳が末永く及びますことを祈念いたしまして、お別れの言葉といたします。

長田先生、どうぞ安らかに眠りください。謹んで御霊前に哀悼の辞を申し上げます。

故 長田敦夫名誉院長の足跡



- 平成14年度
 - 4月1日 ▼長田病院長着任
 - 9月15日 ▼広報誌「あした元気になるあれ」創刊
 - 12月1日 ▼「職員の声」施行
 - 1月8日 ▼「神経内科」開設、21診療科
 - 2月1日 ▼長野市民病院セミオープンシステム（登録医制度）施行
 - 3月31日 ▼病院年報の発刊
- 平成15年度
 - 4月1日 ▼開放型病院認定
 - 5月8日 ▼外来治療室開設
 - 5月12日 ▼「女性専門外来」診療開始
 - 10月1日 ▼CT・MR新棟テープカット式
 - 20日 ▼「急性期病院加算」算定開始
 - 31日 ▼病院機能評価Ver. 4.0認定
 - 31日 ▼臨床研修病院指定
 - 31日 ▼100床増床許可
- 平成16年度
 - 3月1日 ▼新医療情報システム稼動
 - 9月21日 ▼密封小線源治療開始テープカット式
 - 1月15日 ▼第1回市民健康講座開催（定期開催となる）
- 平成17年度
 - 7月16日 ▼開院10周年記念講演会、記念式典、記念祝賀会
 - 1月13日 ▼病院増改築工事 安全祈願祭
- 平成18年度
 - 4月1日 ▼（財）長野市保健医療公社が長野市民病院の指定管理者となる
 - ▼長田病院長が（財）長野市保健医療公社の理事長に就任
 - 6月9日 ▼院内完全禁煙化
 - 7月1日 ▼ボランティアはづきの会図書コーナー開館
 - 7月1日 ▼DPCの導入
 - 8月1日 ▼紹介・相談支援センター開設
 - 9月1日 ▼セカンドオペニオン外来の開設
 - 10月1日 ▼緩和ケア支援室設置
 - 10月1日 ▼コンシエルジュチーム活動開始
 - 1月31日 ▼7対1看護体制の取得
 - 3月31日 ▼地域がん診療連携拠点病院指定
 - ▼長田病院長退任

あした元気になるあれ

病院広報誌「あした元気になるあれ」の題字は長田敦夫名誉院長の揮毫です。

学会認定医等

- ・日本内科学会認定医、指導医
- ・日本消化器病学会認定医、指導医
- ・日本肝臓学会認定医、指導医
- ・日本人間ドック学会認定医

主な所属学会

- ・日本内科学会、日本内科学会信越地方会（評議員）
- ・日本消化器病学会（評議員）、日本消化器病学会甲信越地方会（評議員）
- ・日本消化器内視鏡学会、日本消化器内視鏡学会甲信越地方会（評議員）
- ・日本肝臓学会、日本肝臓学会東部会（評議員）
- ・日本アルコール・薬物医学会（評議員）
- ・日本人間ドック学会（評議員）
- ・日本医学教育学会
- ・日本癌学会

叙勲・叙位

平成21年6月18日
瑞宝小綬章 正六位 授与

故長田敦夫名誉院長略歴

長田 敦夫（ながた あつお）
昭和13年5月6日
茅野市生まれ
昭和40年3月
信州大学医学部医学科卒業
昭和45年3月
信州大学大学院医学研究科修了、医学博士
昭和45年4月～47年12月
信州大学医学部第二内科助手
昭和47年12月～48年12月
長野県立木曽病院内科医長
昭和48年12月～51年4月
信州大学医学部第二内科助手
昭和51年5月～60年3月
信州大学附属病院第二内科講師
昭和60年3月～60年6月
信州大学医学部第二内科助教授
昭和60年7月～平成8年3月
諏訪赤十字病院内科部長
平成8年4月～9年3月
諏訪赤十字病院副院長
平成9年4月～14年3月
国立長野病院院長
平成14年4月～19年3月
長野市民病院院長
平成19年4月
長野市民病院名誉院長
平成21年6月18日
逝去



長野ライオンズクラブより訪問看護車両贈呈式



長野市民病院開院10周年記念祝賀会あいさつ



新オーダーリングシステム導入リハーサル



「第32回長野びんずる」長野市民病院連に参加



第3回長野市民病院 市民健康講座
健康相談コーナーにて



古牧・岸田・大島公民館の長野市成人学校より
パッチワーク寄贈式



開院7周年記念行事
何でも質問コーナーにて



屋上の物干し場の点検（院内巡視）

『故 長田名誉院長を偲んで』

副院長兼消化器内科統轄科長 長谷部 修

「長田先生」と呼んでも先生はもう答えてくれない世界へ旅立たれてしまいました。大きかった背中はいつのまにか小さくなり、退職する時には声まで小さくなっておられました。私が信州大学第2内科へ入局した昭和59年に先生は最後の大学病院時代を過ごされ、その後地域医療に専念するため諏訪赤十字病院へ就職されました。医局旅行の宴会では偶然にも先生の隣に座り、日本酒を湯水のように飲まれる先生の酒の強さに圧倒され、ボーリング大会では持ち前のパワーで180台のスコアを出されていたことが強く印象に残っています。その頃の先生は本当に恰幅がよく、体当たりしてもはじかれそうなく、しかしはじき返すことなく温かく包み込んでくれる大きな包容力をもった先生でした。

長野市民病院へ院長として赴任された時お会いした先生は、以前よりお瘦せになり、お酒の量も減っていたように思います。もしかするとその頃から病魔は襲っていたのかもしれない。先生は医療の流れを洞察する力に卓越されており、病院長として就任以来、当院の発展のために不可欠であった病院機能評価、臨床研修病院、DPC、がん診療連携拠

点病院、増改築、救急センター開設など精力的に取り組んでくださいました。また常に和を尊重し、皆の意見をうまくまとめて病院をリードしてくださいました。自分の病気に対しても決してあきらめることなく、病と共存の精神で1日も長く生きることを大切にされていたように思います。先生の寛大さをもつてすれば死は恐怖ではなかったかもしれない。しかし増床稼働を最後まで十分見届けられなかったことや、晩年に諏訪の地で先生の目指された医療ができなかったことは無念であったと思います。

残された私たち市民病院職員は、先生の志を受け継ぎ、和の精神を尊重し、先生が目標とされた心の通う医療を目指して地域医療を担っていきたく思います。そして市民に満足していただける救急医療の確立、円滑な増床稼働、最後まで明るく希望を持って生きていけるような総合的がん診療を実践することが先生への恩返しになるのではないかと思います。

長田先生4年5ヶ月の闘病生活お疲れ様でした。そして安らかにお休みください。

先生を偲ぶ時、目に浮かぶのは先生の優しい笑顔です。看護部の催しには必ず参加して頂き、美味しうにお酒を召し上がりながら私達の話に耳を傾けて下さいました。優しく時には厳しくご指導をして頂いたことを忘れずに、仕事をしていきたいと思っています。

看護部副看護部長 藤澤 和子

医療安全管理室のリスクマネジャーの辞令をいただいたのが、長田敦夫先生からでした。以降ご在職中は委員会の長として、いつも暖かく見守り支援してください、安心して仕事に励むことができました。心よりご冥福をお祈りいたします。

医療安全管理室看護師長 五十嵐 君与

連携室担当の頃には、何度も励ましやねぎらいの言葉をかけて下さいました。病院長としてけっして遠い存在ではなく、いつも先生を身近に感じて安心して働くことができました。お酒をこよなく愛されて、おいしそうに召し上がっていらつした姿が懐かしき思い出されます。ご友人や息子さんのあいさつを聞いて、先生の素晴らしさを改めて思い出し涙が止りませんでした。長田先生ありがとうございました。これから天国で私達を見守ってください。

看護部看護師長 五十嵐 由江

私が最後に長田先生にお会いしたのは、今年1月に2南病棟に化学療法の為入院された時でした。ご自分の病状や余命も理解した上で、この病棟を開設するまでの熱い

長田先生を偲んで

思いと希望を語ってくださいました。長田先生の言葉は、不思議な力があります。どんな時も勇気と安心をくださいました。「大変だけれどよろしくね」と言われたあの瞬間を絶対に忘れず、市民病院を大切にしていきたいと思っています。

2南病棟看護師長 中川 茂美

長田敦夫先生は、ご多忙にも関わらず、いつもゆったりとやさしい表情で私の話を聞いてくださいました。先生の穏やかさに支えられ仕事をすることができました。ご冥福をお祈りいたします。

感染対策室看護師長 正村 睦子

印象に残っているのはよく私たちに勉強するように話されていたこと、そして、お酒、特に日本酒がお好きで師長・主任会の宴会で「さしで飲もう」といつも言われたことです。

勉強については、「僕が読むくらいの看護雑誌には眼を通そうよ」と話してくれました。本当に看護のことにについて考えていてくださいました。私は、これだけ看護のことを考えてくれる医師にはじめて出会ったと思います。私は今、長田先生の話されていたようにきちんと勉強しているのかと反省しています。

長田先生が、最後に勤められた病院の職員として長田先生が空から見て恥ずかしいくない病院にしていける事が私たちに託された使命なのだと思います。

いつか必ず私もそちらに行きます。その時は、さしで日本酒を飲みましょう。

手術センター看護師長 柳澤 淳子